

研究情報

試験研究推進構想が策定されました

畜産技術センターでは、試験研究を総合的に推進するため、5年ごとに「農林水産関係試験研究推進構想（畜産の部）」（以下、推進構想）を策定しています。今回は、コロナ対策のため7年ぶりの策定となりましたが、令和5年度から9年度までの5年間の推進構想を策定しました。

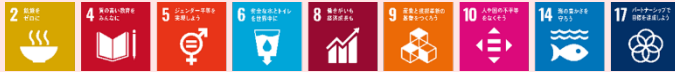
推進構想では、本県の生産現場が直面している担い手不足、飼料価格の高騰、環境対策等の課題解決を最優先に試験研究に取り組みとともに、脱炭素社会への貢献等の中長期的な課題解決に向けた試験研究にも取り組むこととしました。

このため、以下のとおり、3つの試験研究の方向と5つの試験研究目標を設定し、目標を達成するための具体的な試験研究課題を設定しました。

試験研究の方向と試験研究目標

I データ駆動型畜産の実践による生産性の高い畜産経営の実現

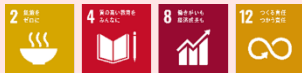
1 データを活用して生産性向上を図るための技術開発



II 県民ニーズに corres する魅力ある畜産物の提供

2 県産ブランド畜産物の生産を推進するための技術開発

3 安全・安心な畜産物を提供するための技術開発



III 環境と調和した畜産経営の実現と脱炭素社会への貢献

4 環境と調和した畜産経営のための技術開発

5 脱炭素社会に貢献するための技術開発



詳しくは、HP  
をご覧ください

I 試験研究の方向  
1 試験研究目標  
アイコンは関連するSDGsの目標

推進構想では、充実・強化する取り組みとして、次の4課題を重点課題に設定しました。

スマート畜産を推進するための技術開発

スマート畜産の導入指標の検証、家畜管理を効率化するための技術開発、家畜ふん尿処理を省力化するための技術開発等により、担い手不足の解消、生産性の向上を目指します。



牛の多機能腔内センサ



浄化槽の自動制御

畜産経営から発生する臭気抑制技術の開発

施設構造や敷地面積、経営状況に合わせた最適な臭気対策により、周辺環境に配慮した畜産経営を目指します。



環境制御型養豚施設



密閉縦型発酵装置

県産ブランド畜産物の生産を推進するための技術開発

畜産物に対する新たな県民ニーズの調査、ユメカナエルの特徴をもつ多産系種豚の開発、かながわ鶏の高付加価値化のための飼養管理技術の開発により、消費者ニーズに合わせた経営戦略による収益性の向上、改良型種豚の利用による養豚経営の収益性の向上、かながわ鶏の高付加価値化による販売促進を目指します。



系統豚「ユメカナエル」



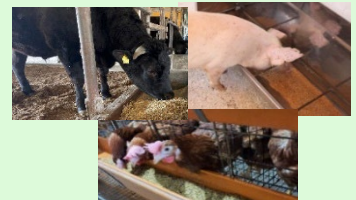
かながわ鶏

畜産生産における脱炭素化技術の開発

牛消化管内発酵由来メタン発生量の低減、脱炭素に寄与する自給飼料生産方法の開発、エコフィード等の地域資源を利用した飼養管理技術の確立により、畜産経営から発生する温室効果ガスの低減を目指します。



子実用トウモロコシの生産



エコフィードの活用

第35回横浜食肉市場ミート・フェアが、4月14日（金）に開催されました。今回は、全国から和牛の部に107頭、交雑種（乳牛の雌に和牛の雄を交配した雑種）の部に39頭、合計で146頭が出品されました。県内からは、和牛の部に6頭、交雑種の部に8頭、合計14頭が出品されました。当所からは、普及指導課職員が審査員として出席し、これらの出品牛を審査しました。

冷蔵庫の中に整然と並ぶ枝肉は壮観で、枝肉の構成、枝肉重量、ロース芯面積、サシの入り、脂の質など全てが素晴らしく、生産者の特徴が出ており、出品に対する意気込みが感じられました。



和牛名誉賞の枝肉断面（美しく細かく入った霜降りのサシをご覧ください）

審査の結果、和牛の部では、青森県の(有)金子畜産が出品した去勢牛が名誉賞、交雑種の部では茨城県の(有)和洋茨城牧場の雌牛が最優秀賞に選ばれました。

県内の生産者では、南足柄市の長崎牧場が出品した雌牛が交雑種の部で優等賞として入賞しました。



肉牛枝肉の審査風景（枝肉の大きさと審査員の背の高さの違いをご覧ください）

研究情報

牧草の収穫が始まりました

畜産技術センターでは、約8ヘクタールの飼料畑で、飼養している牛の飼料を生産しています。飼料畑では、春から秋にかけては、飼料用トウモロコシやスーダングラスなどの夏作物、秋から春にかけては、イタリアンライグラスやエンバクなどの牧草を栽培する二毛作（1年に同じ畑で違う作物を栽培すること）で、土地を有効活用して自給飼料（畜産農家が自ら生産した牧草や飼料作物）を生産します。

4月に入ると、イタリアンライグラスの収穫が始まります。イタリアンライグラスは、春に1年分をまとめて収穫するため、サイレージに調製します。サイレージは、収穫した牧草を乳酸発酵させて雑菌の繁殖を防ぎ、長期間保存することができます。ちょうど、漬物にして保存するのと同じです。

刈り取りした牧草は、そのままでは水分含量が高いため、予乾（天日乾燥）して、乳酸発酵しやすい程度まで水分含量を調整します。その後、ロールペーラでロールベールに成型し、ランプマシーンでラッピングして密封します。発酵に必要な期間は、気温によって異なりますが、今の季節だと1カ月程度で牛に給与することができるようになります。

イタリアンライグラスの収穫後には、すぐに飼料用トウモロコシ等の夏作物の播種が始まります。梅雨入りまでの短い期間に播種するため、一年で一番忙しい時期を迎えています。

最近の国際情勢の影響を受けて、飼料価格が今までにないほど高騰しており、自給飼料（畜産農家が自ら生産した牧草や飼料作物）の生産は、今まで以上に重要になっています。畜産技術センターでは、これらの自給飼料の生産の経験を活かして、県内の自給飼料の生産を促進する研究を実施しています。



刈取りした牧草は予乾して水分含量を調整します



予乾した牧草はロールペーラでロールベールに成型します



ロールベールはラップマシーンで直ちに密封します



ロールベールサイレージの完成

